畑　作

十勝「日本一」陥落　2016年産小麦　33年ぶり

2017年3月29日

道農政事務所が28日に発表した2016年産農産物の収穫量で、十勝管内の小麦は15万1400トン（前年比51.7％減）、ビートは130万8000トン（同23.8％減）と前年を大きく下回った。道内の振興局別でみると、小麦は33年ぶり、ビートは７年ぶりに全道一を明け渡した。どちらもトップはオホーツクで、小麦が16万4800トン、ビートが136万5000トン。

昨年の十勝管内は６月以降、日照不足や台風などの天候不順に見舞われた。秋まきと春まきを合わせた小麦は、十勝で10アール当たりの収量が343キロ。秋まき小麦に限ると、収穫量は14万9700トンで全道１位だったが、10アール当たりの収量は345キロでオホーツクの607キロを大きく下回った。ビートは10アール当たりの収量が十勝4980キロ、オホーツク5690キロだった。

平年の十勝は、小麦は全国の約４分の１、ビートは全国の約３分の１を生産している。

農業ガイド1108号　2017年5月27日
青果物販売　最多424億円　2016年度ホクレン帯広

ホクレン帯広支所（猪股透所長）は、2016年度に取り扱った青果物の販売実績をまとめた。昨年の天候不順や台風によって、数量は前年度に比べて16％減の38万5970トンと大きく下回った。一方で品薄環境で市況は高く推移し、販売金額は３％増の424億3400万円で過去最高を更新した。

青果物の販売実績 2016年度ホクレン帯広支所扱い

主な品目	数量（トン）	前年度比(%)	金額（万円）	前年度比(%)
食用ジャガイモ	27万7770	86	209億1500	109
ナガイモ	2万6920	88	101億1500	104
ダイコン	3万4680	84	39億2100	92
ニンジン	1万6870	66	31億4100	108
タマネギ	1万2160	73	8億1600	78
キャベツ	4960	93	3億9300	81
ゴボウ	1670	62	3億7000	86
ハクサイ	2560	73	2億1600	70
カボチャ	2170	74	2億8400	91
トウモロコシ	1170	87	2億3500	81
ユリ根	170	72	1億5200	73
アスパラガス	100	74	1億0700	86
その他	4750	76	17億6900	86
合　計	38万5970	84	424億3400	103

昨年は６月中旬以降、日照不足や長雨、４度の台風上陸・接近に見舞われた。特に８、９月は雨で各地の畑が滞水し、青果物ではジャガイモやニンジンといった根菜類、タマネギなどの収量が平年を大きく下回った。

不作で品薄　市況高

中でも生食用ジャガイモは収穫期の長雨などで出荷量が16％減ったが、道内の他産地も収量が平年を下回ったことから、販売単価は１キロ当たり75円で前年度より16円（27％）高かった。このため販売金額が伸びて、９％増の209億1500万円に達した。

ナガイモ（４～10月が前年産、11月以降は当年産）も同じ傾向で、数量は12％減の２万6920トンにとどまったが、販売金額は４％増の101億1500万円となった。ニンジンは数量は34％減だったが、単価が73円（65％）高い186円（１キロ当たり）と高騰。販売金額も31億4100万円と好調だった。

一方でタマネギは、天候の影響で不作だったものの、全道的には大豊作で高値とはいえない単価で推移。販売金額は22％減の８億1600万円と大きく減った。

主要な作物の収量は全て前年を下回り、販売金額が前年を超えたのは３品目にとどまった。しかし、取扱量の多い食用ジャガイモやナガイモの好調が影響して、支所全体の販売金額は２年連続で400億円を突破した。

同支所青果課は「数量減の単価高、度重なる台風などの影響で軒並み出荷量は前年を大きく下回ったが、品薄環境も相まって道産シーズン中は市況高で推移した」と振り返っている。

同支所が扱う青果物は、十勝だけでなくダイコンなど一部で釧路地区産も含んでいる。